

(案)

体細胞クローン技術を用いて産出された牛及び豚並びにそれらの後代に由来する食品の食品健康影響評価の進め方について

1. 経緯

- (1) 平成20年4月1日付で厚生労働大臣から依頼があった体細胞クローン技術を用いて産出された牛及び豚並びにそれらの後代に由来する食品に係る食品健康影響評価については、同月3日の第232回食品安全委員会において、新開発食品専門調査会で審議することとされた。また、核移植などの専門家の参画についても新開発食品専門調査会で検討することとされた。
- (2) 体細胞クローン技術とは、成体の体細胞から核を取り出し、これを未受精卵の核を除いたものに移植して新しい個体を作成する技術である。
- (3) 今回評価を求められている事項は、体細胞クローン技術を用いて産出された家畜(牛及び豚)に由来する食品についての食品健康影響評価である。
- (4) これらのことから本評価においては、新開発食品専門調査会の専門委員だけでなく、今回の審議内容を専門とする他の専門調査会に属する専門委員等の参加が必要であり、効率的な審議を行うため、以下のとおりワーキンググループ(以下、WGという。)を設置することとする。

2. 運営

- (1) WGの設置
新開発食品専門調査会の下にWGを設置する。
- (2) WGの構成
WGは、新開発食品専門調査会の専門委員のほか、他の専門調査会に属する専門委員により構成する(別紙)。
WGは、構成する専門委員の互選により座長を置き、座長が議事を司る。
また、座長が必要であると認めた場合には、専門委員以外の有識者の参加を求める。
- (3) 評価結果の取扱い
WGの評価結果は新開発食品専門調査会の了解を得て、同専門調査会の評価結果とする。また、WGの検討状況は、適宜、新開発食品専門調査会に報告する。

(別紙)

ワーキンググループ(WG)のメンバー

○新開発食品専門調査会

池上 幸江 大妻女子大学家政学部食物学科教授

尾崎 博 東京大学農学部教授

上野川 修一 日本大学生物資源科学部教授

○企画専門調査会

早川 勇夫 独立行政法人医薬品医療機器総合機構顧問

○緊急時対応専門調査会、微生物・ウイルス専門調査会、かび毒・自然毒等専門調査会

熊谷 進 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

○遺伝子組換え食品等専門調査会

宇理須 厚雄 藤田保健衛生大学医学部教授

澤田 純一 国立医薬品食品衛生研究所機能生化学部長

手島 玲子 国立医薬品食品衛生研究所代謝生化学部長

和久井 信 麻布大学獣医学部准教授

○専門参考人

小島 敏之 鹿児島大学農学部教授

その他、必要に応じて、専門参考人の参加を求める。